

## 令和6年能登半島地震で被災された皆さまへのお見舞い

この1月1日に発生しました令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔み申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

一般財団法人世界防災フォーラムは東北大学災害科学国際研究所との繋がりを活かし、被災地がよりよい復興に向かうこと、BOSAI（防災）の重要性が認識されることを目指して、日本や世界に向けた発信をこれまで以上に強化して参ります。被災された全ての皆様が一日も早く日常生活を取り戻せるようお祈り申し上げます。

### 激甚化する災害と防災の課題

世界防災フォーラム代表理事 小野 裕一

自然は時に残酷だ。元旦の日の午後4時。久しぶりに帰省した子供や孫達とおじいちゃん・おばあちゃんの一家団らんの場。一年で一番楽しい時間だったはずだ。それが瞬時に阿鼻叫喚の地獄になってしまうなんて。亡くなってしまった方の思い、残された遺族の思いを考えると言葉が見つからない。さぞかし無念であったろう。それが幼い命となればなおさらだ。お年玉を手にして亡くなってしまった子供もいたに違いない。子を持つ親として想像するだけでも耐えられない思いだ。命は助かっても寒い避難所での不便なつらい生活。自分で動けない高齢者はもちろん、障害者にとっては避難所に行って生活するのは大変なことだったに違いない。東日本大震災の時に思った。熊本地震の時に思った。この学校の体育館等での共同避難所での生活、日本人の我慢強さをいいことに変えられないではないだろうか。北陸の真冬に雪の降る中、車やビニルハウスで寝ている人。災害関連死を許すなどのスローガンはよいが、これでは無理である。

現場に足も運ばずにこれ以上、意見したくないので、1月14日に朝日新聞デジタルで配信された神戸大学名誉教授で石川県の災害危機管理アドバイザーの室崎益輝先生の言葉を引用したい。「初動対応の遅れを痛感している。緊急消防援助隊の投入が小出しで救命ニーズに追いついていなかった。想定外を念頭に人属に自衛隊、警察、消防を大量に派遣すべきであった。そしてそれは被災状況の把握が直後にでき



なかったために、国や県のトップがこの震災を過小評価してしまったのではないかと。ボランティアが入れなかった。初動には人材の要素を感じると。」まったく同感である。

日本列島は全国に活断層があり、まだみつからないものも数多くあるという。それがずれることで発生する直下型地震は日本中どこでも起きる可能性がある。おそらく小さな改善では根本的な解決にはならないだろう。地震・火山・津波等に加えて、気候変動に伴った災害は激甚化しており頻度も増えている。地方自治体は人口減少や過疎化で税収も先細りしているので、彼らに十分な対応をしてもらうには限界がある。国家防災庁を作り、抜本的に制度を変えるべきタイミングはもう来ているのではないだろうか。

#### 小野 裕一

世界防災フォーラム代表理事  
東北大学災害科学国際研究所  
教授・副所長

地理学博士。専門は気候学、国際防災政策。世界気象機関（WMO・ジュネーブ）、国連国際防災戦略（UNISDR・ジュネーブ・ボン）、国連アジア太平洋経済社会理事会（ESCAP・バンコク）で国際防災政策立案に従事。2012年に東北大学災害科学国際研究所の教授に就任。災害統計グローバルセンター長を兼務。第1回 World BOSAI Forumの事務局局長を務め、2018年に一般財団法人「世界防災フォーラム」を設立し代表理事に就任。

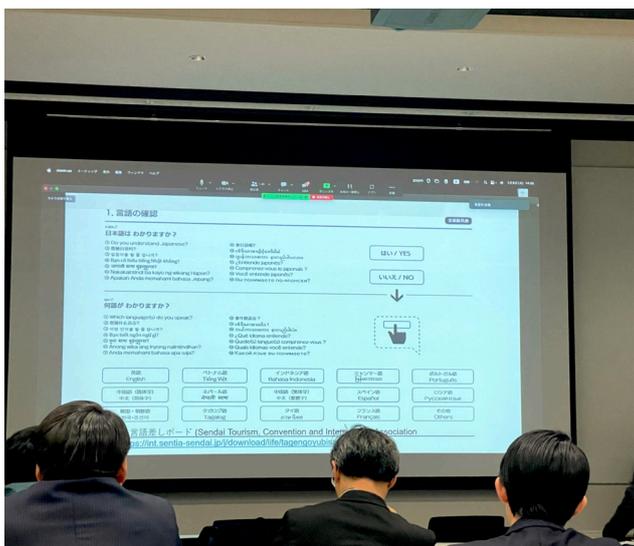
# 令和6年能登半島地震に関する 解析・調査の速報

東北大学災害科学国際研究所 (IRiDeS) が主催する能登半島地震に関する速報会において、地震のメカニズムや現地の状況などが様々な分野の先生により報告されました。

当財団代表理事の小野が速報会の中で紹介したとおり、アーカイブ動画や資料などが IRiDeS の特設ページにて公開されておりますので、1月9日時点における能登半島地震の状況を把握したい方はご参照ください。

東北大学 能登半島地震

[https://irides.tohoku.ac.jp/research/prompt\\_investigation/2024noto-eq.html](https://irides.tohoku.ac.jp/research/prompt_investigation/2024noto-eq.html)



## 仙台防災未来フォーラム2024 に出展します

日時：2024年 3月9日(土)

会場：仙台国際センター展示棟

無料でどなたでもご参加いただけます。



### セッションおよびブース展示を行います

セッション 13:25-14:25 発表エリア 4 (会議室 3-A)

100年前の手紙 — 関東大震災直後、アメリカ  
に届けられた日本人学生の感謝の想い —

### ブース展示

ここが新しい！ 仙台防災枠組のアイデア  
— なぜ“世界”防災を仙台から発信するのか —

また、10:00-16:00に発表エリア1 (会議室3-B)にて開催される“東北大学災害科学国際研究所連携シンポジウム”の閉会式では、世界防災フォーラム代表理事の小野裕一が登壇し、世界防災フォーラム2025の発表を行う予定です。

仙台防災未来フォーラムは、入発表やブース展示、体験型プログラムを通じて防災を学べる市民向けのイベントです。どなたでも無料でご参加できますので、是非お越しください。

セッション発表では、昨年新聞やテレビにとりあげていただいた、関東大震災の頃にかかれた750通の手紙を追跡するプロジェクトの途中経過を発表します。東北三県凶作に始まり、やがて東日本大震災に繋がる日米の相互協力の歴史を読み解いて、国際協力の意義と将来の備えを考えます。

ブース展示では世界防災フォーラムの活動や、“世界”防災フォーラムが“仙台”に生まれた理由を仙台防災枠組の背景に触れながら説明します。セッション発表で紹介する100年前の手紙の関連資料も展示する予定です。

仙台防災未来フォーラム 2024

ご寄付のお願い

世界防災フォーラムの活動は皆さまからのご寄付によって支えられています。

いただいたご支援は世界防災フォーラム開催などの事業や日々の私たちの運営費に活用されます。



ご寄付はこちらから